

割賦販売の外貌と内包

品
田
誠
平

- 一 はじめに
 - 二 割賦販売なる用語
 - 三 割賦販売の定義
 - 1 割賦販売法案
 - 2 税法
 - 3 経済学者
 - 4 法学者
 - 5 会計学者
 - 6 要約
 - 四 割賦販売の形式
 - 1 割賦の語意
 - 2 割賦形態
 - 3 掛形態と割賦形態との相違
 - 4 要約
 - 五 割賦販売の内容
- 割賦販売の外貌と内包

割賦販売の外貌と内包

一一四

- 1 商品譲渡の基本的形態 — 販売 —
- 2 商品譲渡の発展的形態 — 信用 —

(1) 掛販売

(2) 割賦販売 — 信用販売 —

(3) 割賦販売と金融収益

(4) 掛販売と割賦販売との相違

六 むすび

一 はじめに

割賦販売という言葉は、今日では業者だけでなく、子供や老人でさえ、しばしば口にするほど、市民に親しまれ、われわれの日常生活と直結している用語となっている。

しかし、割賦販売とはなにか、とあらたまつてたづねられるとき、これに正しい即答ができる人はあまりない、また、あつても、その見解は人によって、いろいろと相違している。

通常、討論がおこなわれるばあい、ある前提にもとづいて議論が種々展開され、そして、なんらかの結論に到達することがしばしばである。

割賦販売会計の在り方についても、種々異なる処理方法が主張されるのは、割賦販売の理解の仕方が論者により相違するからである。

本稿においては、割賦販売会計の出発点として、割賦と販売(商品の譲渡以下同様)との統一物としての割賦販売と何か、これを課題とし、それを一定の形式(割賦)と特定の内容(販売)とに分析して考察してみようと試みる。

二 割賦販売なる用語

割賦販売 (instalment selling) と同意の米語には、割賦購買 (instalment buying)、信用販売 (credit merchandising)、定期販売 (time sales)、繰延支払 (deferred payments)、分割払 (partial payments)、イーザン・ペーメント (easy payments)、糖衣予算法 (the "sugar-coated" budget plan)、賃貸借購買 (hire-purchase)、所得からの支払 (pay-out-of-income)、契約販売 (contract selling)、割賦購入 (instalment purchase)、十回払法 (ten-payment plan) などがあると称されている。⁽¹⁾

割賦販売は、賦払が週ごとにされるか、毎月なされるか、年々おこなわれるかによって、それぞれ週賦、月賦、年賦などともいわれる。

かかる割賦販売について、一般にはどのようなものとして理解されているであろうか。これを知るために、まづ、各方面の定義をみることにしよう。

(1) Theodore N. Beckman and Robert Bartels, *Credit and Collections in Theory and Practice*, 1956, p. 87, Edwin R. A. Seligman, *The Economics of Instalment Selling*, in two volumes, volume one, 1927, p. 1

三 割賦販売の定義

1 割賦販売法案

この法律において「割賦販売」とは、代金を二月以上の期間にわたり、かつ、三回以上に分割して受領すること

(購入者をして販売業者の指定する銀行その他預金の受け入れを業とする者に対し、二月以上の期間にわたり三回以上預金させた後、その預金のうちから代金を受領することを含む。)を条件として指定商品(耐久性を有し、かつ、定型的な条件で販売するのに適する商品であつて政令で定めるものをいう。以下同じ。)を販売することをいうこととする。⁽¹⁾

2 税 法

この通達において割賦販売とは、一定の販売条件を定めた定型的な約款による商品等の販売で売上代金を月賦、年賦その他の賦払により受け入れるもののうち、次に掲げる条件のすべてに該当するものとする。

(1) 売上代金を収入すべき期日(以下「履行期日」という。)が頭金の履行期日を除いて月、年等を単位としておむね規則的に到来し、かつ、各履行期日において収入すべき金額がおおむね均等、通減又は、通増である等規則的であること。

(2) 当該商品等の引渡しの日、(その日前に所有権の移転のあった場合には、その所有権の移転のあった日とする。以下同じ。)から最終の履行期日までの期間(以下「履行期間」という。)が三か月以上のもの(履行期間が三か月以上のものが金額で大部分を占める場合には、履行期間が三か月未満のものを含む。)であること。

(3) 商品等の引渡しの日までに取得した代金の金額が販売価額の $\frac{3}{10}$ の $\frac{2}{10}$ 以下であること。⁽²⁾

3 経済学者

割賦販売は、その支払の全部か一部が、将来に繰延べられる財貨の売渡しと定義できる。支払は売渡しの際に承認された計画にしたがつて、分割して、あるいは、継続的分割方法でされる。

この定義には、つぎの重要な四つの要素がある。

第一は、財貨の現在の売渡しということである。その財貨は、物的有形物か、貨幣か、あるいは、特権、または、権利のような無形物の類である。

第二は、現金支払でないということ、つまり、全部、あるいは、一部の支払が将来においてなされるという規定があることである。財貨は現在引渡されるが、その財貨に対する支払は、少なくとも、分割で将来に繰延べられることである。

第三は、将来の支払が、総額でなされるのではなく、分割でおこなわれることである。つまり、定期的に、そして、継続的分割、あるいは、割当額で、しかも、販売時に承認された一定期間において、各分割払が間隔的におこなわれるのである。

第四は、頭金の大きさ、割賦の回数および買戻し条件を規定した一定の契約から成立していることである。

割賦販売の四要素の分析を通じて、問題とするところの割賦販売なる現象が、信用の一形態であるということが明らかに⁽³⁾になった。

4 法学者

割賦販売契約の法的観念——割賦販売契約は、いわゆる割賦払約款によって附合契約化された売買の一類型であるといふことができる。

実際の契約にあたっては、ほとんど売主が一方的に作成した——印刷され、内容の固定した——契約書が用いられ、買主にとっては、割賦払の手段を利用しようとするかぎり、それに応ずるほかにないようになっている。契約書の標記

をみると、「月賦売買契約書」というふうに卒直に表現したものもあるが、「条件附売買」とか「使用貸借」ないし「賃貸借」などのように表現するものもあり、必ずしも一様ではない。最近、各地に続出している月賦払を専門的に扱う商店においては、単に「契約書」という表現を用いているものが多くなっているようである。しかし、どのような表現を用いるにせよ、これらの契約書によって示されるものが、実質的に一種の売買であることは、たしかである。……

ところで、割賦販売を附合契約化している割賦払約款の主たる内容は、つぎの三点にある。⁽⁴⁾

- (1) 代金の周期的分割払
- (2) 目的物は一般に先渡
- (3) 強力な債権保障方法

5 会計学者

(1) Dictionary for Accountants

不動産、または、動産を販売するにあたって、等額を継続して支払う方法をとるもの。販売価格は、附加費を含めることがあって、販売の際には、頭金の支払が一般に要求される。その所有権は、財貨の売渡しと同時に移るが、売手には動産抵当権が附与されるか、または、購入価格（販売価格）の未払額にたいして先取特権がつけられる。所有権については、支払期間中第三者に移すこともできるし、あるいは、ある一定回数 of 支払をなした後、または、最終回の支払をなしたのち移すこともできる。⁽⁵⁾

附加費とは、割賦支払契約において、販売費および管理費、利子、危険負担、そして時にはその他の要素を賄なう

ために附加される金額である。

(2) 会計ハンドブック

直ちに総代価の支払を要求せず、代金を一定期間、同一金額に分割して支払うべき特権の販売契約を割賦販売と称し、比較的高価な物品につき相当盛んに行われている。その代表的な月賦販売……における個別条件として、

イ 頭金

契約の最初、代金の一部の即金払が要請されるのは販売者が売掛金を全部危険に曝さないためと、金融の円滑を計るためである。その額の決定は物品が新品としての値段と古物としての値段との差以上であること、買主がなお残余の額の支払を快よく思う程度の額であること等がいわれ、具体的には自動車は売価の三〇%、宝石類二〇%、家具・ピアノが一五%、蓄音機・裁縫機械が一〇%などといわれる。

ロ 信用期間

一回の賦金額そのものがその期間に損廃してゆく程度より大となるべきこと等がいわれる。具体的にはピアノが二四ヵ月、家具・裁縫機械・冷蔵庫等が一八ヵ月、自動車、洗濯機・ガス・スーヴが一二ヵ月、ラジオが六ヵ月などである。⁽⁶⁾

右の3—5の定義は、必ずしもそれぞれの学会における定説というわけでない。割賦販売は後述のように、その社会により、時代によって経済的意義を異にし、また、既述のごとく論者により、その見解は種々相違している。

6 要約

同一物たる割賦販売にかんして与えられる定義は、すでにみたところからも明らかなように、一様でなく、また、

割賦販売の本質にかかわる理解の仕方、論者により相違している。

割賦販売について、割賦販売法案要綱は、代金を二カ月以上の期間にわたり、かつ、三回以上に分割して受領することを条件として指定商品を販売することをいうと概念規定をなし、代金の受領を金融機関を介入せしめその預金からするばあいも含ましめるとともに、商品については、政令で定める耐久性を有し、かつ、典型的な条件で販売するのに適応するものと指定している。税法は、一定の販売条件を定めた典型的な約款による商品等の販売で売上代金を賦払により受け入れるものであると規定し、その販売条件、賦払条件を重視している。法学者田中実教授は、割賦販売は契約書の表現のいかんにかかわらず、実質的には一種の売買であることはたしかであるとき、割賦払約款によって附合契約化している点を指摘し、その主たる内容が、代金の周期的分割払、目的物は一般に先渡、強力な債権保障方法の三点にあることを主張しておられる。また、会計学者 Kohler 氏は、不動産、動産を販売するにあたって、等価を継続して支払う方法をとるものとなし、太田、黒沢、岩田、佐藤の諸教授監修の会計ハンドブックは、直ちに総代価の支払を要求せず、代金を一定期間、同一金額に分割して支払うべき特権の販売契約であると称している。つまり、上述の法案、税法、法学者、会計学者は、割賦販売をそれぞれ指定商品を販売すること、商品等の販売、一種の売買、不動産動産の販売、特権の販売契約などと結言し、表現を異にしているが、その本質を販売とみなしている。ところが、経済学者 Seligman 教授は、割賦販売を信用の一形態であると、強く主張している。

そして、信用とは何かについて、彼は、財貨の慣習的期限の一次的譲渡から成立するところの交換、あるいは、取引である。近代において譲渡される財貨の多くは、貨幣、あるいは、貨幣を要求する権利から成立しているので、今日では、信用は、貨幣の一次的売渡を意味することになると述べている。さらに彼は、割賦販売にかんして、つぎの

ように叙述している。

割賦販売においては、貨幣の売渡しというより、商品の売渡しということになる。

経済的概念と法的概念とは相違する、法的には、物の所有権を移転する場合は、売却ということになるが、所有権を保持しながらその所有とわかれるならば、貸付ということになる。経済的には、信用とは、財貨の暫定的慣習的期限の供与ということである。

信用販売は、経済的見地から言えば、全然販売ではない。法的には、所有権は移転され、そして、支払が繰延べられるということであるが、経済的には、ある金額を返還させるという条件にしたがつて、売手が買手にその商品の利用を許容するということである。経済的販売は、金銭支払がなし遂げられるまでは、つまり、信用が完済されるまでは、完全にはならない。⁽⁷⁾

彼は、また、上述した点から割賦販売について、つきの三点が指摘されるという。

(1) 売渡しが暫定的であるから、それは将来の期間において、終結することになる。貸付は返却されなければならない。貸付の返済には、その経済的等価物が返されなければならない。

(2) 商品が貸付られ、そして、支払が、ある一定期間の満期日になるまで繰延べられるならば、それは厳密に言えば、信用の一ケースである。

商品が貸付られるか否か、あるいは、貸付が貨幣か否か、あるいは、他の購買力から成立しているか否かというようなことは、重要な問題ではない。もし、商品その物が返品されるという意図の下に商品が譲渡されるならば、それは普通の貸付である。他方、特定の商品その物でなく、その代替物が返されるとすれば、貸付られた物は借手の財貨

となり、それに対する支払が売手になされなければならない。すべて、かかる場合、信用は事実上、貨幣の、あるいは、貨幣の等価物の将来の支払にかんする契約となる。つまり、商品、あるいは、購買力、または、財貨の支配権は、直ちに期間売上高となる。それに対する支払は、貨幣、あるいは、貨幣の等価物で、あるいは、将来の購買力でされる。

(3) 貸手は、契約で取極めた日付に、債務を決済する借手の能力を信じなければならない。取引は将来に対する現在の購買力の交換、あるいは、潜在的購買力から成立っているから、すべての信用は、信頼の上に存立する。要するに信用は、ある物を利用する権利である。それは商品か、貨幣か、貨幣の等価物か、ともかく他人に所屬している最終的経済的権利である。信用のあらゆる形態において、その使用、あるいは、享受は現在であるが、その支払は将来に繰延べられる。⁽⁸⁾

さて、割賦販売の本質は、あるいは販売であるとも主張され、あるいはまた、信用であるとも論じられるのであるが、こゝに問題とする割賦販売の本質は、果して、純然たる販売、それとも、純然たる信用であらうか。

割賦という一定の形式と、販売という特定の内容との統一物たる割賦販売は、現金形態での販売、つまり、現金販売や、掛形態での譲渡、つまり、掛販売とその形態を異にする点から、現金販売、掛販売と区別される独自の性格を有するものとして成立することになる。

しからば、割賦販売の固有の性格とは何か、これにかんしては、後述するように、割賦販売をその形式と内容とにまづ分析して考察し、ついでこれを形式と内容との統一物として綜合把握することによって明らかにされと思う。

割賦販売における形態、ないし、方法としての割賦は、あとで述べるように純技術的なものであるから、割賦その

ものは、何ら経済的意義を有するものでない。しかし、割賦販売における内容、ないし、実体としての販売は、後述のごとく企業の商品売買にかかわるものであるから、それ自体が経済的有意義なものであり、したがって、社会的、歴史的に規定されるものである。

- (1) 割賦販売法案要綱 第二 定義
- (2) 直法一一四四(例規) 昭和三十四年十二月二十六日、割賦販売等による損益の法人税の取扱について
- (3) Edwin R. A. Seligman, op. cit, p. 2
- (4) 田中美稿 割賦販売における法律問題 ジェリスト誌 一九五九年二月一日 一一―一二頁
- (5) Eric L. Kohler, Dictionary for Accountants, 1952, p. 222
- (6) 太田哲三、黒沢清、岩田巖、佐藤孝一監修、会計ハンドブック 三七六頁
- (7) Edwin R. A. Seligman, op. cit, p. 3
- (8) Edwin R. A. Seligman, op. cit, p. 4

四 割賦販売の形式

割賦販売が、現金販売、掛販売と区別される点は、形式的には、それが割賦という特殊な形態をもつためである。形式論者は、割賦形態を重視し、割賦という形式、ないし、方法それ自体の特色をもって、割賦販売の本質と解し、その内容としての販売について探究しようとしなない。しからば、割賦販売における割賦とは、一体どのような形態を意味するものであろうか、まづこの点を若干の辞典についてみよう。

1 割賦の語意

(1) The Shorter Oxford English Dictionary

割賦販売の外貌と内包

(i) 確定期日に、確定の金額を支払うとりきめ。

(ii) 支払にたいして約束された支払、あるいは、期日、それは契約による金額が、何日かにわけられているもの、それは分割してある表示期日に支払われる。

(iii) 支払わるべき一定金額は、分割されている数個の部分の一つ、別々の確定期日に支払われるために、残額に先立って期日に支払わるべき金額の一部。⁽¹⁾

(2) Dictionary for Accountants

(i) 負債にたいして一部分を返済すること。

(ii) 負債にたいする部分的支払を連続しておこなうことを当事者が協定した場合、その一回の支払、その各々の支払にたいして、金額、支払期日が明示され、しばしば利子が含まれている。⁽²⁾

(3) Webster's Dictionary, New Twentieth Century

(i) 指定の時期を正規の時期として支払われる負債、あるいは、金額のある一部分。

(ii) 一定の時において現われる数個のうちの一つ、Story が分冊出版される場合におけること。⁽³⁾

(4) A New English Dictionary on historical principles

「Install」という動詞からきて、それに ment をプラスしている、あるいは、In + Stalment である。Estallment

参照)

(i) 一定の期日に確定部分の金額を支払うとりきめである。= Estallment 陳腐語

(ii) 支払い、つまり、総合計金額の区々の部分について支払を指定した時期、それは一時に全額を支払う代り

に、当事者間の契約にもとづいて、ある定められた時期に一部分を支払うことである。

- (イ) 異なる確定時に支払われるためには、支払われるべきある金額が数回の部分の各々に分割され、総額の一部が残高に対して予め支払われる。

Instalment (f. Install + -ment)

- (イ) 椅子につく (installing) という行為、あるいは、任命される (being installed) という事実、就任 (installation) これは役目、あるいは、高位に公式に就任すること。

- (ロ) アメリカの長老派教会およびその他の教会では、既に牧師になったものの任務に対する僧職授任。⁽⁴⁾

(5) Webster's New International Dictionary of the English Language

イ 就任の行為、つまり、就任の状態 installation

ロ 人の位置する席、あるいは、場所

イ 負債の一部分、つまり、異った時期に支払いのなされる諸部分に分割されるところの金額

ロ 一定期間において、出版される出版物の数部分のうちの一つ、七冊からなる小説のうちの一冊のごとく。⁽⁵⁾

(6) Webster's International Dictionary

instalment は installment と綴られる。

イ 就任の行為、就任、すべての王から、また、すべての長官から彼らの最初の就任の時に、法律により公正な正義をおこなうために宣誓をもとめる。

割賦販売の外貌と内包

ロ 人の位置する席〔陳腐語〕

ハ 負債の一部分、つまり、異った時期に支払いのなされる諸部分に分割されるところの金額。割賦による支払は、異った時に諸部分にわけて支払われる。その金額と時期は往々契約時に規定される。⁽⁶⁾

(7) 大英和辞典

イ 数回に分ち償却する負債の一回分の支払金、月賦（又は年賦等）支払金、済崩払込金。

ロ 数回に分ちて出す物の一回分、済崩し部分の一。

ハ (1) 就職、就任、就任式、(2) 据附、設備。

ニ 座席、席、済崩し、済崩し販売法。⁽⁷⁾

(8) Dictionary of Business and Finance

イ 数回に分けられた部分の一つ、雑誌の発行において、連続小説の分割されるごとく、または、積送品の全量のうちの一部分の一回の引渡し。

ロ 特に特定の時を決めて、支払うべき債務の一回を支払うもので、それは他の負債の支払に定められた期日とは異なる。⁽⁸⁾

- (1) The Shorter Oxford English Dictionary, volume I. A—M 1952. p. 1017
- (2) Eric L. Kohler, op. cit, p. 224
- (3) Webster's Dictionary, New Twentieth Century, Second Edition, 1957, p. 950
- (4) A New English Dictionary on historical principles, volume V. H—K 1901, p. 348
- (5) Webster's New International Dictionary of the English Language, Second Edition, 1952, p. 1287

(6) Webster's International Dictionary, 1891, p. 771

(7) 大英和辞典 富山房 八〇〇頁

(8) Donald T. Clark and Bert A. Gottfried, Dictionary of Business and Finance, 1957, p. 184

2 割賦形態

割賦という言葉は、上記の割賦の語意からも明らかなように、それはあるものの総数量、ないし、総額を、いくつかのある時間的間隔をおく部分に、分割するということを意味する用語である。

割賦の対象となるものは、物品でも、価格であっても、債権債務などでも、あるいは、商品、小説のようなものでもあってもさしつかえなく、そのほかいかなることがらであっても、もし、それが数学的に分割できるものでさえあるならば、それらのすべては、普遍的に割賦の対象となりうるのである。つまり、割賦は特定の内容を保有しない容器であり、それは無色、無内容の一形態、ないし、数学的一算式にしかすぎない。

かかる割賦の形態は、同時的分割と異なり時間的間隔的分割、ないし、その方式なる点に特色が存する。

たとえば、株式会社が資本五〇万円を調達する際に、額面五〇〇円の株式を、一、〇〇〇株発行するというばあいには、五〇万円が、一、〇〇〇株に均等分割されるが、それは一時に五〇〇円単位の一、〇〇〇株に分割発行されるのであるから、時間的間隔のない同時的分割であって、割賦とはならない。

ところが、もし、銀行から一〇〇万円を借り、これを一カ月一〇万円の割合で、一〇カ月間に返済するということであれば、一〇〇万円が一時に一〇万円単位の一〇カの部分に分割されるのと異なり、一〇〇万円が、一カ月という時間的間隔をおく一〇回、つまり、一〇カ月間に均等分割されることになるから、それは割賦といわれる。

要するに割賦形態の特色は、ある総数を、ただ、いくつかに分割するというだけでなく、いくつかの時間的間隔を

おく部分に分割するという点に求められる。

3 掛形態と割賦形態との相違

掛という形態は、ある一定の期日に至るまで、決済を全部延期することであるが、割賦という形態は、上述のごとく、総数をいくつかの時間的間隔をおく部分に分割するものである。したがって、前者は総数が一定期間まで全面的に延期される形態であるのに対して、後者は総数がある時間的間隔をおく、いくつかの期日に、それぞれ連続する部分として分割される形態である。つまり、前者は総数が未来の一定期日まで、総括的、一時点的に移動する形態であるが、後者は総数が現在から未来に至るある時間的間隔をおく、いくつかの期日に、それぞれ連続的に分割されて移動せしめられる形態である。

割賦販売における割賦の形式は、同時的分割や掛形態とも相違する独自にして、かつ、一定のものであるとともに、それは無内容な一形態にしか過ぎないから、数的に分割しうることがらでさえあれば、いかなる事象についても適用でき、同時的分割、総括的延期の方法よりも、便利にして、進歩的な技術、ないし、方法である称することができる。

4 要約

割賦という用語の概念は、ある総数を、現在から未来にいたる、ある時間的間隔をおく、いくつかの期日に、それぞれ連続する部分として配分する形態を意味するものである。そして、割賦形態は、株式発行に際して採用される同時的分割や、商品の信用譲渡として適用される掛形態の総括的一時点の延期とも相違し、区別される固有な一定の形式である。

割賦形態は、それ自体は無内容の一形態、一技術であるから、社会的制約も、歴史的規定もうけるものでなく、数学的に分割できる事象でさえあれば、それが何を意味するものであっても、普遍的に適用することのできる便利な手段である。

無内容の割賦の形態が、ある特定の事象、たとえば、積送品、小説、価格、債権債務などについて適用されるにおよぶとき、これらによって、はじめて割賦形態に特定の内容がそれぞれ付与されて、割賦の形式と割賦の内容とをそなえる統一物、つまり、割賦積送品、割賦小説、割賦価格、割賦債権、割賦債務となって、それぞれ有意義なものとなる。つまり、割賦積送品は、積送品の総量が全部一時的にはなしに、何回かの期間にわけて部分的になされる特殊なものとなり、割賦小説は、一つの小説が、連続する何冊かの本、ないし、雑誌に分割して出版されるばあいであらわし、また、割賦価格、割賦債権、割賦債務などは、それぞれ価額、債権額、債務額などが、一時に全額支払い要求されずに、何回かの期間に分割して支払われることが承認されているものを意味するものとなる。

さて、割賦という一定の形態が、譲渡という特定の内容を有する統一体は、割賦販売といわれるが、それはいかなる固有の意義を有するものであろうか、割賦形態の内容としての譲渡について少しく考察しよう。

五 割賦販売の内容

割賦販売の内容は、財貨の授受にかかわる事実である。財貨の授受は、それ自体が経済的行為であるから、社会的制約、歴史的規定を受けるものとなる。したがって、われわれの社会における、現在の割賦販売の典型的な内容は、近代企業の生産する商品の譲渡、つまり、商品と貨幣との交換にかんす事実となる。

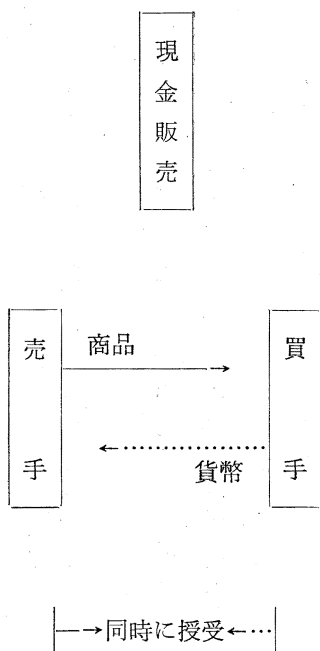
そこで、商品譲渡とは何かを、商品生産がなされ、貨幣制度が成立しているばあいにおける萌芽的形態、ないし、基本的形態とみなされる現金譲渡について、まづ、考察することにしよう。

1 商品譲渡の基本的形態 — 販売 —

商品譲渡の基本的形態は現金販売である。現金販売は、貨幣制度が成立し、企業の商品生産がおこなわれるところで具現される商品の萌芽的譲渡様式である。

現金販売は、外觀上は、商品の譲渡を媒介として、価値の形態が商品から貨幣にかわる現象であるが、本質は、価値の給付、つまり、商品の売り渡しと、反対給付、つまり、その等価の受領とが、同時におこなわれる商品の譲渡様式である。

売手と買手との両当事者間において、価値の給付と反対給付とが、なんらの時間的間隔をおくことなしに、つまり、一時的になされる点にこそ、現金販売の独自の性格が存在する。



一回限りの現金販売のばあいにおける、売手の貸借対照表（B/S）の資産の側の変化と、損益計算書（P/L）上の記入、そして、買手の貸借対照表の資産の側の変化とを示すと、左記のようである。

売手の財務諸表

B/S	
商品 a/c (-)	
↓	
現金 a/c (+)	
P/L	
売上原価 a/c(+)	売上高 a/c (+)

買手の貸借対照表

B/S	
現金 a/c (-)	
↓	
商品 a/c (+)	

（註）商品（棚卸資産）が原価をもって評価されるときは、売手の商品勘定と売上原価勘定との価額は、このばあい一致し、また、現金勘定と売上高勘定との価額も合致する、もし、売上原価と売上高以外に費用、収益がなければ、両者の差額が、貸借対照表の右側（損失のときは左側）と、損益計算書の左側（損失のときは右側）とに、それぞれ利益として記入され、丁字型の左右の合計額は平均せしめられる。

2 商品譲渡の発展的形態——信用——

(1) 掛販売

掛販売は、萌芽的な現金販売より発展したものである。掛販売は、信用制度の自然発生的基礎を形成するものである。

割賦販売の外貌と内包

り、それは商品の譲渡をその価格の実現から時間的に分離させる諸関係が必然に発展してくるとき生成する。

掛という形態は、既述のように、総数が未来の一定期日まで、総括的、一時点的に繰延べられる方法である。この形態が商品の譲渡に適用されるとき掛販売と称され、それは買手が将来の一定期日に代価を支払う旨の承諾を、売手からえて商品を購入し、売手は買手の申出を信頼し、このような条件のもとで商品を譲渡するという信用にもとづく商品の譲渡様式を意味する。

掛販売においては、売手の商品価格は貨幣支払をもつて実現されず、買手の貨幣支払約束、つまり、私法的な貨幣請求権においてのみ実現されるにすぎない。

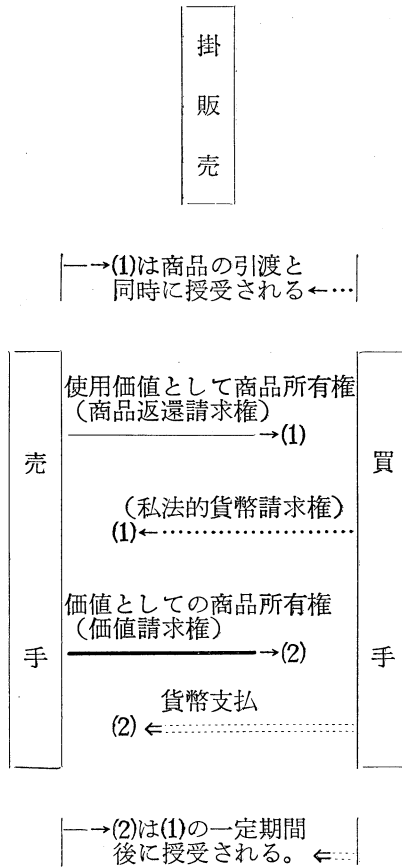
掛販売においては、買手が代価を未来の一定期日に全額支払う旨を約して、その商品を売手から購買するものであるから、買手が商品代価を貨幣で現実に支払う時点は、売手が買手に対して、商品を譲渡する時点よりも、時間的に延期されることになる。つまり、掛の形態での商品代価が将来の一定期日に、貨幣で支払われるまでの期間は、商品の価格は貨幣支払として実現されず、ただ、私法的な貨幣請求権としてのみ実現するのである。

掛販売のばあいは、商品のうちに結実されている使用価値と価値との二つ構成要素が、それぞれ分解せしめられ、使用価値としての商品そのものの所有権は買手に移転され、売手は商品の返還請求権を消失することになるが、しかし、商品の価格たる価値としての商品の所有権は買手に移譲されず、売手は買手にたいする価値請求権を依然として留保することになる。

掛販売の本質は、上述のように、掛形態での譲渡を媒介として、売手は商品を、買手の現在における貨幣全額支払でなしに、未来の一定期日における貨幣全額支払にたいする期待、つまり、経済的には信用、法律的には債務とひき

かえに譲渡するものである。したがって、掛販売は、将来の約定期日に買手が貨幣をもって、現実に売手になりたいする支払債務を完全に履行するに至るまでの期間は、価値が、貨幣形態でなく、商品の形態をとって貸付られる。つまり、経済的には信用が与えられることになる。

このばあい貸付の返還は、商品の返還請求権にもとづいて請求されるのではなく、価値請求権によっておこなわれるから、商品形態ではなくして、貨幣形態でされる。



(註) 売手の商品引渡しと買手の貨幣支払との時間的間隔が、信用期間であり、この信用期間が、信用の時間的基盤である。

一回限りの掛販売における、売手の貸借対照表と損益計算書、そして、買手の貸借対照表の変化の過程を示すと、左記のようになる。

売手の財務諸表

B/S	
商 品 a/c	
↓ (1)	
売掛金 a/c	
↓ (2)	
現 金 a/c	

P/L	
売上原価 a/c	売上高 a/c

(註) 損益計算書に商品の売上高と売上原価とが記載される時期は、現金主義にもとづくばあいは、現金収支のみられるときであるが、発生主義によるときは、費用、収益の発生した日である。収益について実現主義が採用される際は、売掛金の生じた日となる。なお、現金販売の註記を参照。

買手の貸借対照表

B/S	
商品 a/c (+)	買掛金 a/c (+)
↑	↓ (1)
現金 a/c (-)	買掛金 a/c (-)
↑	↓ (2)

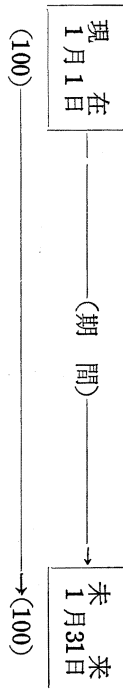
(註) 貨幣が現実に支払われたときは、現金購入の場合と同様に、現金勘定が商品価額だけ減少、商品勘定が商品価額だけ増加することになる。

(2) 割賦販売 — 信用販売 —

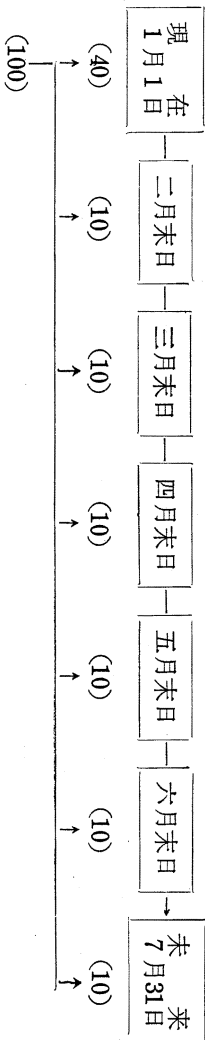
割賦販売は、現金販売と複雑化した掛販売との mosaic ともみられるが、掛販売よりも一層進歩的な独自の技術形態を保有するものである。

割賦の形態は、掛の形態がある総数を将来の一点まで全体的に延期するものであるのに対して、それはある総数を現在から未来にいたる、ある時間的間隔をおく、いくつかの期間に、それぞれ継続的、部分的に分割、ないし、延期するものである。

掛 形 態



割賦形態



割賦形態は、右の図表のように、ある総数を、時間的間隔をおく、いくつかの部分（七ヵ月）に分割する一方式で、何ら内容を有していない。右の図表においては、一応便宜上、一〇〇という数字を仮定的に採用したまでであって、もちろん、一〇〇という数字でなく、他のいかなる数字であってもさしつかえないのである。また、その数字は、既述のように積送品、価格、小説、債権債務、そのほかいかなる意味を有するものであっても一向にかまわないのである。

割賦なる形態が、一技術的方法として、特定の意味をもつこれらの数字を、自己内容と規定するとき、それは上述のように、それぞれ内容と形式との統一物、割賦積送品、割賦価格、割賦小説、割賦債権、割賦債務などとなって、一定の形式に特定の内容が付与されることとなり、しからざるものとそれぞれ区別される固有の形態と意味とをそなえるものとなる。

割賦の形態が商品の譲渡に適用されるとき、それは割賦販売といわれるものとなる。割賦販売は売手が現在から未来にいたる、ある時間的間隔をおく、いくつかの期間に、代価を賦払する承諾を買手に与えて、商品を手渡す一部現金一部信用での譲渡様式である。

この商品の譲渡方法は、これを形式的にみれば、商品代価の一部が初回現金払いされる点に限定して思考すれば、それは現金販売の形態に存するものである、また、残余の商品の代価がいくつかの期間に分割し、繰延べて支払われるという点からは、その一回の繰延べ支払についてみれば掛販売の形態とみられる。かかる形式的な規定にもかかわらず、その内容たる商品の譲渡それ自体は経済的性格をもつものであるから、経済的には、商品代価において占める現金払の額と、何回かの時間的間隔において支払われる掛払の額、つまり、信用の額との割合が、如何に決定されるかという点が、極めて重要となる。

割賦販売における、初回の現金払の額、つまり、頭金の商品代価において占める割合、そして、残余の支払にかんする時間的間隔、つまり、週か、月か、年か、その回数ほどれだけかという、この三つの経済的に重大な要素は、金融市場における割賦金融機関相互間における競争と、割賦金融機関の貸金にかんする思慮とによって、そのときどきの金融事情にもとづき、割賦金融機関によって決定されるのが実情である。

The American Bankers Association は、割賦販売における、頭金、時間的間隔（月）、回数の三要素を左記のようにすることを推挙している。

割賦販売金融案内

2,500ドル、あるいは、それ以下の商品

販 売 品 目	最低現金 パーセント	賦払回数 (単位月)
自 動 車		
新 車	33⅓	24
中古車—旧型車	33⅓	18
中古車—新型車	40	15
新家庭用器具		
冷蔵庫（ガス・ 電気）コンロ、 洗濯機、アイロ ン	20	36
ラジオ、蓄音機 コンビネーショ ン、その他の器 具	25	18
テレビジョンセ ット	25	18

(3) 割賦販売と金融収益

割賦販売では、商品を現金販売での価格と異なる割賦価格をもって譲渡する。割賦価格は現金価格に金融収益を加算したものである。

この金融収益は、つぎの三つの方法のうちの一つで表示されるか、あるいは、確認される。⁽¹⁾

イ パーセンテージで負担額を表示する。

ロ 金額をもって負担額を表示する。

ハ 割賦価格と現金価格との差額として表示する。

金融収益は、現金価格から頭金の額を差引いた残余の繰延支払額にたいする貸付利子と貸付費用とから形成されるものである。この金融収益、つまり、賦払利子が通常の銀行貸出利子に比してどんな程度であるかを知るためには、左記のような分析をなすことが必要である。

たとえば、現金価格一〇〇ドルの商品が、割賦価格一〇六ドルで販売され、このばあい、頭金は二〇ドル、残金は六カ月間に毎月均等額で分割支払いされる契約がなされたとする。

分析 (1)

割賦販売で、買手に融資される金額は、割賦価格一〇六ドルから現金で支払われる頭金の額二〇ドルを差引いた額八六弗ではなく、現金価格一〇〇ドルと頭金二〇ドルとの差額八〇ドルである。六ドルは利子および手数料などであって貸付の対象となるものでない。

分析 (2)

名目上の金融収益のレートは、六ドルで一〇〇ドルを割った率、つまり、六パーセントであるが、頭金二〇ドルが支払われるから、実際上の金融収益のレートは、六ドルを八〇ドルで割った、七・五パーセントとなる。

分析 (3)

銀行金利は、通常、日歩か年率をもって表示されるから、これと同一の基準で比較するため、金融収益率七・五パーセント（六カ月）を年率であらわすと一五パーセントとなる。

分析 (4)

賦払金は、毎月均等額をもって支払われるから、融資される元金は月々減少されることになる。したがって、上記の名目的な金融収益レート（ r ）一五パーセントは、真実なレート（ R ）を示すものでない。真実のレートは、左記の公式によって算定され二五・七一パーセントになる。

$$R = \frac{r(2n)}{n+1} = \frac{15\%(2 \times 6)}{6+1} = \frac{15\% \times 12}{7} = \frac{180}{7} = 25.71\%$$

割賦販売においては、右のように、商品は現金価格に利子および手数料など（名目的な六ドルではなく実質的な二五・七一ドル）を加算した割賦価格をもって譲渡されるのである。

(4) 掛販売と割賦販売との相違

割賦販売は、掛販売と同様に信用を伴うものであるが、それは現金販売をも伴うものであり、また、掛販売よりも一層複雑なる信用取引である。そして、このことは割賦販売における金融収益、つまり、賦払金にかかわる利子の計算を、掛販売よりも、また、通常の貸付のばあいよりも、遙かに複雑なものにする。

(1) T. N. Beckman and R. Bartels Op. cit., Pg6

六　む　す　び

割賦販売は、既述のように、それは一定の形式（割賦）と特定の内容（販売）とに分析しうるものであるとともに、それはまた両者の統一物として思考される。かかる割賦販売は商品代価の支払を、頭金の額については現金払いとし、残余の額については時間的間隔をおくいくつかの将来の期間における繰延払いとする。したがって、買手が頭金を除く商品代価を、売手に賦払いする時期は、売手が買手に商品を譲渡する時点よりも、すべて時間的に延期されることになる。売手の商品価格は、買手が商品代価を賦払いで完済するまでは現金の支払額しか実現されず、残余の額は私法的な貨幣請求権としてのみ実現される。この賦払のとりきめは、経済的には信用の授受であり、法的には債権債務の発生となる。そして、売手は信用の授与者、債権者となり、買手は信用の受領者、債務者となる。

割賦販売では、買手が、もし、賦払期日が到来したとき、売手に対する債務の弁済をなさないときには、買手がすでに取得した商品を取り戻すことができる旨を、その契約の条項に規定する。

割賦販売では、商品自体は譲渡されるので、上記の取り戻し条項に反しない限り、売手は商品そのものの返還請求権を消失し、買手はその商品を利用、処分、ないし、消費することが自由となるが、商品の価格たる価値は、買手の支払う頭金の額を除いては、買手の賦払い、つまり、未来の貨幣支払の期待にもとづいて貸与されたに過ぎないから、それが将来において貨幣で現実に支払われるまでの期間は、売手は買手に対する価値請求権を留保することになる。信用制度が確立し、買手が売手にたいする賦払について手形を振出す慣行が一般化し、売手が支払期日の到来をま

たずに、金融機関において手形を割いて貨幣を受取るようになると、商品の売買当事者間の信用授受の關係は、金融機関と買手との信用授受の關係に転化し、金融機関は商品を賦払で購買した買手に対する信用の授与者となり、買手は金融機関からの信用の受領者となる。預金制度の確立と預金創設の普及とがみられ、また、ゴーイング・コンサーンと思考される企業に従事する勤労者の将来の労働、未来の所得が確実化してくると、かかる勤労者はあらかじめ金融機関から資金を借入れることが可能となり、彼らはそれによって設定される預金によって、割賦購買をなすようになる。

売買当事者間の信用は、金融機関の媒介によって、上述のような金融機関と買手との信用に發展し、割賦販売業者は金融機関の信用業務の窓口を担当するものとなるに至る。かかる割賦販売の歴史的變遷については、拙著割賦販売會計において詳述したので、本稿においては紙面の關係上割愛する。

要するに割賦販売は、割賦形態という点から考察すれば、それは過去においても現在においても、また、将来においても、何ら変らない。もし、変化するとすれば、それはもはや割賦とは称しえないものとなるからである。しかし、割賦販売における特定の内容である商品の譲渡という事象は、それ自体が經濟的な事柄であるから、それは經濟の發展にともなつて歴史的自己發展を遂げる性格のものである。割賦と販売（商品の譲渡）との統一物たる割賦販売は、陳腐的割賦販売から、近代的割賦販売へ転質し来っていることは、前掲拙著で論述したところであり、近代割賦販売會計が、その研究課題とするものは、正に近代割賦販売にかかわる事柄であると思考する。